

令和 7 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特17					学校名	県立美浦特別支援学校					学校長名	鈴木 広美							
副校長名	加固 友衛					教頭名	川邊 聖子					事務長名	関 俊信							
教職員数	教 諭	120	養 護 教 諭	2	栄 養 教 諭	1	常 勤 講 師	22	非常勤 講 師	5	実 習 助 手	2	寄 宿 舎 指 導 員	0	事 務 職 員	3	技 術 員 など	17	計	176
児童・ 生徒数	部	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		合計		合計 クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	小学部	15	7	10	3	14	10	17	8	13	14	15	4	84	46	30				
	中学部	16	12	15	12	19	10							50	34	19				
	高等部	20	17	24	11	24	10							68	38	19				
													小計 合計	202	118	68				
														320						

2 目指す学校像

- ◆ 自立と社会参加を目指し、児童生徒一人一人の能力や特性に応じた教育を行い、生きる力を育成する。
- 生き生きと学び、成長できる学校【元気で ⇒ 自立】
 - 互いを認め合い、尊重される学校【なかよく ⇒ 尊重】
 - 地域から信頼される開かれた学校【たくましく ⇒ 貢献】
 - 自信と誇りをもてる学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学校経営	○ 個別最適な学び・協働的な学びの充実 ・昨年度も、「資質・能力を伸ばす学習の充実」を重点項目とし、チャレンジ事業を活用して「生活科」「理科」の適切な目標の設定と評価のサイクルに基づいた授業改善に取り組んだ。 ○ 社会に開かれた教育課程の視点に立った指導の充実 ・企業や福祉関係機関と連携し、体験的な学習の時期や方法（オンラインの活用など）の工夫による指導の充実を図るだけでなく、小 ・中学部保護者に対しても積極的な情報発信を行った。 ○ 豊かな心作りの充実 ・普段生活や様々な指導場面において、自己肯定感の育成及び向上を図ってきた。 ○ 地域への情報発信の工夫 ・交流及び共同学習、外部専門家を活用した授業づくりなどの実践とＨＰなどを使った情報発信を行ってきた。 ○ センターの役割の充実 ・担当職員の専門性の向上を図りつつ、巡回相談など、地域のセンター的役割を担った。 ○ 安全・安心な学校体制の強化・徹底 ・ヒヤリハット事例の共有や各訓練実施内容などの工夫しながら実践することができた。	・「個別最適な学び・協働的な学びの充実」に向けて、単元構想（授業設計図）による授業デザインを活用し、実践、評価、改善のサイクルに基づき、授業改善に取り組む。 ・早期から系統的で段階的な指導に取り組む。本校に関する積極的な情報発信をするとともに地域や企業、関係諸機関との連携を図り、持続可能な取組を行う。 ・様々な学習や体験を通じて、自己肯定感を高め、他者を認めることのできる心作りや相談しやすい環境づくり（ＩＣＴを利用した相談受付等）をすることで安心して生活を送ることができるようにする。 ・コミュニティスクールを活用した新たな地域との関係づくりや適切で的確な情報発信、適正就学に向けた情報提供や連携強化を図る。 ・相互的な関係を構築し、相談・支援活動の迅速且つ効果的な役割の充実を図る。 ・教職員一人一人の危機意識と気づきの醸成を図り、安全・安心な学校体制の徹底を図る。

	○ 健康・体力の維持増進 ・「けがのないじょうぶな体作り」の取り組みなど、運動する機会を設け、健康体力の維持向上を図ってきた。 ○ 働き方改革 ・教師一人一人の時間外勤務時間の月平均は13時間弱ではあるが、繁忙期（特に年度初めの4月は月平均のおおよそ倍の24時間弱）となっている。	・「口の健康」に向けた保健学習の実施、関係機関との連携、「けがのないじょうぶな体り」のための健康・体力の維持増進を継続する。 ・業務の更なる削減、効率化（ICTの活用）を推進し、授業づくりの時間を創出する。
学習指導	○ 学校研究の推進 ・令和6年度は「単元構想（授業設計図）と主体的・対話的で深い学びの授業実践—子どもたちの生活を豊かにする生活科と理科の授業づくり—」というテーマのもと、単元構想シートをもとにした授業構想、チャレンジ事業と関連させた研修などを通して、生活科、理科の教科の特質に基づく授業研究を行い授業実践につなげることができた。 ○ 客観的な実態把握を踏まえた適切な目標及び指導内容の設定と学習評価の工夫 ・全児童生徒を対象に、太田ステージとSM社会生活能力検査を実施し、客観的な実態把握を行った。また、自立活情報整理シートを改善、活用することで、実態把握から目標設定、より個に応じた適切な学習内容設定が行えるようになった。 ・年間指導計画を改善し、3観点で各単元の目標を設定した。 ○ 情報教育 ・児童生徒用並びに教職員用のタブレット端末の整備が進み、CANVAやmeetを使った授業を行ったり、学習場面では、黒板と電子黒板を使い分けながら効果的な授業を行ったりして、多くの授業で活用されている。 ○ 統合型校務支援システムの運用 ・全職員を対象に、システムへの入出力、活用ができるように、研修やマニュアルの改訂などに取り組んでいる。	・生活科、理科で行った授業構想に基づいた授業実践を、他教科にも広げることで、教師全体の授業力向上につなげる。令和7年度は全校で「算数・数学科」に焦点を当て、実践をする。 ・年間指導計画の内容や記入について見直し、改善していくことで、学習内容の系統性を構築する必要がある。 ・タブレット端末の整備を継続して行い、個別で活用していく授業のあり方や情報を共有して活用を行っていく必要がある。 ・教職員を対象とした研修会を実施するとともに、マニュアルの改訂や支援機関リストの見直しを行っていく必要がある。

4 中期的目標

- 1 一人一人の障害の特性を把握し、個別の教育支援計画及び個別の指導計画の運用に係るカリキュラム・マネジメント機能を働かすことにより、児童生徒が主体的に参加し、資質・能力を伸ばすことのできる学習の充実を目指す。
- 2 学年や部に応じた情報提供、家庭、地域、医療、労働、福祉などの関係機関との連携協力を密に図りながら、個々の実態や進路希望に応じた就労・生活支援の充実に努め、自らが望む自立と社会参加の実現を目指す。
- 3 地域連携協議会や特別支援教育充実事業の運営協力、相談支援の一層の推進・学校見学会・体験学習など地域のセンター的役割を積極的に果たすとともに、関係諸機関（幼稚園、保育所、保健センター、小中学校、高等学校、教育委員会、保護者など）との連携強化とネットワークを構築し、地域から信頼される学校づくりを目指す。
- 4 地域住民、学校評議員などの外部意見や保護者の意見、提言などを取り入れるとともに、コミュニティスクールを活用した新たな地域との関係づくりや適切で的確な情報発信などから社会に開かれた教育課程を推進し、地域とともにある学校づくりを目指す。
- 5 教職員一人一人の思いや気づきを生かし、学校の設備・体制の整備・見直しを進め、健康で安全・安心な学校づくりを目指す。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
1 個別最適な学び・協働的な学びの充実	① 知的特別支援学校における「楽しさ」に気づき、「興味・関心」を引き出す「算数・数学科」の授業づくり
	② 単元構想（授業設計図）による授業デザイン、実践、評価、改善へ
	③ 外部専門家と連携した自立活動の充実
	④ 授業づくりを支える「チャレンジUP」の推進
2 社会に開かれた教育課程	⑤ 系統性を踏まえた計画的・段階的なキャリア教育及、進路指導の充実
	⑥ 企業や関係機関等への積極的な情報発信、連携強化
	⑦ SDGsの取組
3 豊かな心づくりの充実	⑧ 道徳教育の実践、あいさつの励行、いじめの早期発見と対応
	⑨ 自己肯定感と自己有用感の向上、互いを認め合える心の育成
4 社会と連携した教育活動 ー地域で輝く児童生徒の育成ー	⑩ コミュニティスクールでの課題共有と地域資源を活用した教育活動
	⑪ 学校間交流、地域交流、居住地校交流等の推進
5 専門性を活かした センター的機能の工夫と充実	⑫ 「地域連携体制構築事業」「特別支援教育推進体制充実事業」による通学区域内市町村との課題共有、改善と充実
	⑬ 校内外における相談・支援の一層の充実と関係諸機関との連携
6 安全・安心な学校体制の 強化・徹底	⑭ 安全・安心、清潔な教育環境の整備
	⑮ ヒヤリハット事例、改善策の共有
	⑯ 安全な食事指導、食物アレルギーへの対応、食育指導の推進
	⑰ 緊急時に対応できる実効性のある訓練等の実施と地域と連携した危機管理体制の充実

	⑱ 安全な通学の確保に向けたバス会社や保護者との連携
7 健康・体力の維持増進	⑲ ケガをしない丈夫な体づくり、体力づくり、保健学習の推進
	⑳ 医療的配慮・医療的ケアを要する児童生徒への学校生活支援と学習支援の充実
8 信頼される学校づくりと 働き方改革の推進	㉑ 服務規律の確保とコンプライアンス意識の向上
	㉒ 一人一人の Well-being を目指した働き方改革